

全世界6,500人、日本でも毎年100名を超える IBM社員ボランティアが、専用サイトからオンラインで 子どもたちの学習を支援します。



「IBM メンタープレイス」は、教室での学習活動と結びついたオンラインの学習プロジェクトを通じて、子どもたちがより大きな学習成果を実現できるよう支援するプログラムです。

世界のいずれの国でも、子どもたちにとって、自分たちの生活の中に、先生方や保護者以外の他の大人が存在することは非常に大きなメリットがあると考えられます。とりわけ学習の支援を受けたり、あるいは将来選択し得る魅力的な仕事を直接見たり聞いたりすることは、きわめて有益な体験となるでしょう。

「IBMメンタープレイス」は、IBMが推進する「IBMオンデマンド・コミュニティ」で提供している、ボランティアによる教育支援プログラムのひとつです。オンデマンド・コミュニティとは、IBMの優れたテクノロジーを活用して、Web上にボランティア活動のためのナレッジ・バンクをつくり、ボランティア募集情報の提供や活動に役立つ資料やツールを、世界中で登録したIBM社員や定年退職者が、いつでもどこでも活用できるようにするものです。社員や定年退職者が働いたり住んでいる地域での、非営利団体組織や学校などへのボランティア活動を効果的に支援しています。

「IBMメンタープレイス」では、当プログラム専用の安全なWebサイト上で、IBMの社員ボランティア(メンター)が生徒(メンティー)に、1対1でWebベースのツールによるオンライン・コミュニケーションを通じてメンタリングを行います。社会学習上の支援やキャリアについて一緒に考える機会を提供し、若い世代の問題や関心事を共に話してよき助言者となる場を提供します。

安全な環境で継続的なコミュニケーションを行ない、効果的な学習活動を支援することが可能となるこのツールは、現在英語、ドイツ語、日本語、スペイン語、およびポルトガル語で利用することができ、2007年には中国語にも翻訳されました。今日では、オーストラリア、ブラジル、カナダ、コロンビア、英国、ドイツ、日本、メキシコ、ペルー、スコットランド、スペインなど世界35カ国以上で6,500名を超えるIBM社員が、8歳から17歳までの7,000人以上の生徒に対し、メンタリングによる教育支援を行っています。また、日本ではこれまで延べ370人のIBM社員が3,000時間以上をかけて、約10ヶ月間のe-メールを通じた学習やキャリア教育支援を実施しています。

メンタープレイスが日本で開始された2003年から、神奈川県大和市では、300名を超える中学生がIBM大和事業所の社員を中心とするIBM社員とオンラインで交流してきました。愛知県岩倉市でも、約70人の中学生が関東地方の社員をも含むIBM社員と交流しています。また、女子生徒にIT分野のキャリアに興味をもたせることを目的に約一週間のキャンプを行なう「IBM EX.I.T.E Camp」プログラムに参加した20人以上の女子生徒がIBM女性技術者と一緒に数学や科学などの学習課題に取り組んでいます。

メンティーは、Webサイトから提供される数学、科学、社会、芸術、読書、スポーツさらに仕事などの学習課題の中から、メンターと一緒に興味あるものを選定して、その課題について安全な専用サイトで週1回30分をメドとして、eメールのやりとりを行い、一緒に学習し理解を深め助言も受けます。当プログラムでは、メンタープレイス開始時の、お互いを理解しあうための「顔合わせ会」、プログラム期間満了時の「終了パーティー」などの公式の場以外で会うことや、電話番号や住所を教えあうことはできないルールとなっています。

プログラム実施にあたっては、学校長承認のもとで学校の先生やカウンセラーにも参加いただき、メンティーは保護者の了解を得て参加します。先生はメンティーが毎週学校のコンピューターを利用できるよう協力し、メンティーのやりとりの状況を把握し、入力促進を支援します。また、IBMの社会貢献担当者やコーディネーター役のボランティアは事務局としてメンティーとメンターのマッチング(同性同士が原則)を行うと共に、入力状況の定期的な確認により円滑なプログラム運営を支援します。更に、プログラム開始にあたってIBMメンタープレイス参加者全員に、当プログラムの内容、ルール、操作法をはじめとする必須研修を実施し、十分な理解を促進します。



IBMメンタープレイスのプログラムは、IBM社員ボランティア(メンター)、先生方、および生徒(メンティー)たちの熱意が一体となってはじめて効果的に機能します。

メンタープレイスの構成要素

- 明確なプログラムの目標と計画策定
- コンピューターとインターネットの活用
- 専用サイトでの安全性とセキュリティーへの対応
- 熱意のある参加者
- 全参加者に対する研修とサポート
- IBM社員ボランティア(メンター)と生徒(メンティー)間のコミュニケーション
- 定期的なモニターによる円滑な運営
- 「顔合わせ会」、「終了パーティー」開催
- プログラムの評価

「IBMメンタープレイスは、IBMの教育支援への積極的な取り組みを実現するひとつの機会です。革新的テクノロジーを利用してe-メンタリングによって、子どもたちと触れ合う時間を作ることが困難な当社の多忙な社員にとっても、継続して子どもたちの教育支援を行うことを可能にします。」と、IBM社会貢献バイス・プレジデント Stanley S. Litow は述べています。

現在IBMメンタープレイスは継続したボランティア活動に応じて会社からPCや資金の寄贈が行える「コミュニティー・グランツ・プログラム」の一部に組み込まれており、このプログラムを通じてメンター役のIBM社員は、IBMメンタープレイスで使用するデスクトップPCを学校に寄贈し支援することも可能です。

メンタープレイスの利点

■生徒(メンティー)にとって

- メンターのIBM社員から新しいテクニカルなスキルを学び、それを実践する機会となる
- 社会人としての重要な価値やスキルの理解など、ビジネスの世界との触れ合うことができる
- 自分のことを考えてくれる保護者・学校関係者以外の大人との関わり合いがもてる
- 今後の成功への意欲が向上する
- テクノロジーに触れて、文章作成、キーボード操作を実習する機会が増加する

■先生方にとって

- 教室を支援する新たな協力者を得る
- 生徒を支援する地域社会の大人とのつながりが拡大する
- ビジネス界との連携が強化する

<参加者コメント>

■生徒(メンティー)

- 将来の仕事のことについて、わざわざ調べて教えてくれたりして、いろいろなこともわかってすごく勉強になって楽しかった。仕事のことや社会にでてからの事など色々知る事ができた。
- 大人とメールするのは初めてで、最初はどんなことをメールしていいのかわからなかったけど、ふだん両親と話さないようなことも話せたので良い経験でした。
- 自分にとっても役に立つアドバイスなどをたくさんもらえ、自分を成長させることができたので良かったです。ペアの人がいろんな考えを教えてくれたのでとても役立った。
- いろいろ勉強になって良かった。パソコンのキーボード打ちも早くなって良かった。

■教師

- 人との関わりを学んでいくという意味でも、メンタープレイスは、いい経験の場になっていると思います。
- メールを書くことは、自分の気持ちを表現する訓練にもなります。話すことが苦手だった生徒が、自分を表現する手段として文章を書く能力を伸ばすことができた、メールというツールがとても有効に働いた例もありました。
- 生徒たちにとっては、数年後、何かに悩んだり、岐路に立った時に、メンターさんとの会話が役に立つ時がきっと来ると思っています



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

【お問合せ先】

社会貢献 ccrjp@jp.ibm.com

© Copyright IBM Corporation 2007

IBM、IBM MentorPlace®、On Demand Communityは、IBMの商標。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。